

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

平成 23 年度分担研究報告書

高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究

分担研究者 渡邊 学 大阪府立急性期・総合医療センター

リハビリテーション科 主任部長

研究要旨

1.近畿ブロック連絡協議会における各府県の報告より、相談件数の変化や研修会の拡がり等が確認され、事業の一定の進捗が見られた。また、「近畿ブロック支援コーディネーター会議」にて実務担当者間の交流も行われ、ブロック全体の支援コーディネーターの連携に寄与した。一方で、事業体制における支援コーディネーターの府県差や共通の課題（協力医療機関の不足や支援ネットワークの構築）が抽出された。これらの課題に対応するためには、各府県が独自の取り組みを推進すると共に、他府県の良策を相互に参照していく必要がある。また、特に医療機関との連携については国レベルの方策が求められると言える。

2.学校における高次脳機能障がい児・者支援については、関心を持つ学校（研修会参加者）における意識の変化や支援拠点機関での一定の対応が可能であると認められた。また、大阪府内の学校を対象とした調査により、学校における高次脳機能障がいの実態の一端が明らかになった。その結果からは各年代において、焦点を絞った啓発や支援活動、研修事業などを展開することが有効な手立てになりうると予想される。今回の結果を基礎資料とし、各年代の持つ特徴や困り事を詳細に分析したり、調査の規模を広げたりすることで、さらに効果的な支援方法を検討すべきである。

A. 研究目的

1.近畿ブロック各府県における支援普及事業推進および近畿ブロック内の連携緊密化のために連絡協議会および近畿ブロック支援コーディネーター会議を開催する。連絡協議会では支援実績についての情報交換や事業進捗に資する協議を通して事業の均質化を目指す。また、近畿ブロック支援コーディネーター会議については実務担当者が支援技術や各種情報、そして課題や艱難を分かち合う場とする。これらに付随して、平素から支援コーディネーターを中心としたメーリングリストを運用することで、連携協力体制の一助とする。

2.学校における高次脳機能障がい児・者支援の普及啓発のため、学校教員対象の就学支援に関する研修会を開催する。同時に、支援の現況把握のために各支援拠点機関の支援実績を近畿ブロック内にて共有する。また、今後の高次脳機能障がい

児・者支援策の検討に役立てるとともに、必要となる支援方策を提言していく基礎資料とするため、学校における高次脳機能障がい児・者の実態を調査する。

B. 研究方法

1. (1) 近畿ブロック各府県の所管課および支援拠点機関、ブロック内の政令市（京都市・神戸市・大阪市・堺市）の所管課に参加を求め、連絡協議会を開催する。また、協議会に合わせて各府県および政令市の支援体制の整備状況を調査する。

(2) 近畿ブロック各府県の支援コーディネーター等の実務担当者に参加を求め、近畿ブロック支援コーディネーター会議を開催する。

(3) 各種情報や課題共有のツールとして、支援コーディネーターを中心としたメーリングリスト（愛称：“コーディネット”）を運用する。

2. (1) 学校における高次脳機能障がい児・者支援の普及や支援技術の啓発を目的とした教員(小・中・高等・支援学校等)対象の研修会を開催し、研修会終了後にアンケート調査を行う。

(2) 連絡協議会において各支援拠点機関の児童・生徒に対する支援状況を調査する。

(3) 学校における高次脳機能障がい児・者の現状を把握するため、大阪府内(大阪市・堺市含む)の小・中・高等・支援学校を対象に実態調査を行う。

(倫理面への配慮)

本研究は高次脳機能障がい支援ネットワーク確立のための支援が主体であり、いずれの調査・報告も特定の個人が識別できる情報は含まれておらず、個人のプライバシーが損なわれたり不利益をこうむることはない。

C. 研究結果

1. 近畿ブロック活動状況

(1) 近畿ブロック連絡協議会の開催(平成24年1月11日 於:大阪府立急性期・総合医療センター 講堂)

【出席者】55名(近畿ブロック各府県の所管課および支援拠点機関の支援コーディネーター、ブロック内の政令市の所管課、その他関係機関、当事者・家族会)

【議題】

①厚生労働科学研究事業「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」の平成23年度事業について

②近畿ブロック内における各府県・政令市の平成22年度の取り組み及び平成23年度の事業について

③その他

(2) 各府県および政令市での支援体制の整備状況(近畿 別添資料1参照)

(3) 近畿ブロック支援コーディネーター会議の開催

<第1回>(平成23年6月20日 於:大阪府立障がい者自立センター 大会議室)

【出席者】22名(近畿ブロック各府県の支援拠点機関の支援コーディネーター等の実務担当者)

【議題】

①各府県の支援状況確認

②テーマトーク「相談支援の流れ」「関係機関との連携」

③事例検討

<第2回>(平成23年11月29日 於:大阪府立障がい者自立センター 大会議室)

【出席者】23名(近畿ブロック各府県の支援拠点機関の支援コーディネーター等の実務担当者)

【議題】

①講演「高次脳機能障がい者を支援する人々の精神的負担」(講師:徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 教授 白山 靖彦氏)

②事例検討「相談支援に困難が生じた事例」

③平成24年度に向けて

(3) 支援コーディネーターを中心としたメーリングリスト(愛称:“コーディネット”)を運用

【内容】近畿ブロック連絡協議会・支援コーディネーター会議についてのアナウンス、各府県の研修会の案内、事例についての相談など

2. 学校における高次脳機能障がい児・者支援の普及啓発および支援状況・実態の把握

(1) 学校における高次脳機能障がい者の就学支援に関する研修会を開催(平成23年12月5日 於:ホテルアウリーナ大阪)

【出席者】180名(大阪府内の小・中・高等・支援学校等の教員、近畿ブロック支援拠点機関の支援コーディネーター等)

【講演内容】「高次脳機能障がいの理解と支援—教室での特別支援教育ここがポイント—」(講師:広島医療秘書こども専門学校・広島県スクールカウンセラー・広島県立教育センター ふれあい相談室 馬屋原 誠司氏)

※上記研修会の終了後にアンケート調査を実施
(近畿 別添資料 2 参照)

(2) 各府県における児童・生徒に対する支援状況の確認(近畿 別添資料 1 内「児童・生徒に対する取り組み」参照)

(3) 大阪府内(大阪市・堺市含む)の小・中・高等・支援学校を対象とした「学校における高次脳機能障がいの実態に関するアンケート」の実施(近畿 別添資料 3 参照)

D. 考察

1. 昨年度から引き続き、近畿ブロック 6 府県すべてにおいて支援拠点機関を中心とした支援普及事業が実施されていることが把握された。相談件数に関しては各府県で昨年度と同程度もしくは増加しており、従前どおり、支援拠点機関に相談が集まる傾向が窺われる。その中でも、関係機関からの相談件数の減少が見込まれる地域もあるが、この傾向からは地域独自の支援体制が構築されつつあることが予見できる。また、支援コーディネーターの府県差(入れ替わりのサイクルや雇用形態、勤務形態、配置人数の違いなど)が見られており、それが事業展開における地域差にも影響していると予測される。このような状況もあり、実務担当者が一同に会する近畿ブロック支援コーディネーター会議が支援コーディネーターにとっての研修かつ共感の場(経験や支援技術を補完するだけでなく、相談支援についての悩みを共感する場)になることが期待される。研修会についても従来どおり開催されているが、昨年度大阪府が実施した「相談支援者養成研修」のような単なる普及を越えた“支援の質を高める研修”が今年度は複数の府県で開かれた。これはブロック内の情報共有が功を奏した結果だと考えられる。以上の実情を踏まえると、引き続きブロック内の繋がりを緊密化していくことが有用であると思われる。

各府県共通の課題として、支援ネットワークの構築が声高に叫ばれており、特に協力医療機関の不足が第一に挙げられている。高次脳機能障がい支援のスタート地点である医学的診断・見立てが可能な機関を各地域で充実させることは喫緊の課題である。これらの課題に対応するためには、各府県が独自の取り組みを推進すると共に、他府県・他ブロックの良策を相互に参照していく必要がある。特に医療機関との連携については、改めて全国レベルでの問題提起が必要だと考えられる。また、ブロック内の連絡協議会に医師が参加していない府県があることも、そういった現状を反映しているのかもしれない。当然、福祉機関を中心とした地域の支援機関に対しての啓蒙・啓発も十分ではないという意見も根強く、引き続き、支援拠点機関が主導してネットワークを構築していくことが要請される。

政令市に関しては府県への協力を中心的な活動とあげる市が多い中、堺市が大阪府より支援普及事業を受託しており、これからの事業展開によっては、近畿ブロック内の政令市のモデルとなることが期待される。

2. 学校における高次脳機能障がい児・者支援について、研修会終了後のアンケートの 3 年間の推移を概観すると、研修参加者の「高次脳機能障がいを知っている割合」や「勤務先(学校)に対象児童・生徒が在籍する割合」に大きな違いはないものの、在籍する場合は「何らかの支援をしている」という回答が年々増加している。また、その内容も単に「支援学級への在籍」から具体的な個別配慮の内容が挙げられるまでに至っており、学校現場での意識の変化の一端が認められる。

支援拠点機関での児童・生徒への対応状況については、すべての府県で何らかの支援を行っていると報告があった。事例の数が少ないとの声も聞かれるが、今後は、支援を必要としている学校の掘り起こしや支援拠点機関以外でも対応が可能となるような枠組みを広げることが望まれる。

また、今後の支援策の検討のために実施した大

阪府内（大阪市・堺市含む）の小・中・高等・支援学校を対象とした「学校における高次脳機能障がいの実態に関するアンケート」により、学校における高次脳機能障がいの実態の一端が明らかになった。注目すべき点としては、「現在不足している取組や情報」、つまりサポートが求められている部分が各年代によって異なっている点が挙げられる。具体的には、「注意・記憶・遂行機能障がい、社会的行動障がいへの対応方法」は小学校・中学校・高等学校の順に割合が高くなって一方、反対に「教職員の理解」「進学・就労についての進路相談」は高等学校・中学校・小学校の順で高くなっている。高等学校では同時に「専門家との連携」が高くなっており、高校生年齢ではより社会との繋がりを見据えた支援が求められている現状が見受けられる。“社会との繋がり”という高校生年齢の課題については支援拠点機関が持つ成人に対する支援技術・資源が援用可能だと思われ、学校現場への普及啓発に困難さを感じている地域においては、こういったノウハウを持つ部分を取っ掛かりとしてもらいたい。学校現場への普及啓発を目指すのであれば、このように焦点を絞った啓発や支援活動、研修事業などを展開することが有効だと考えられる。各年代の持つ特徴や困り事を詳細に分析すると共に、調査の規模を広げることで、学校現場に対するさらに効果的な支援方法が見出せると思われる。また、今回は大阪府という一地域での実態が把握されたにすぎないため、調査地域を広げていくことが肝要であると言える。

E. 結論

近畿ブロックにおける支援普及事業は各府県での相談件数の変化や研修会の拡がり等により、一定の進捗が確認された。また、ブロック単位でも実務担当者間の交流が盛んに行われ、近畿ブロック全体の底上げにもひとつの方向性が見出された。その一方で、「支援ネットワークの構築」といった従来からの課題に加え、「支援コーディ

ネーターの府県差」「診断できる医療機関の不足」といった高次脳機能障がい支援の根幹に関わる課題が改めて浮き彫りになってきている。こういったブロック内共通の課題については、各府県が独自の取り組みを推進すると同時に、他府県の良策を相互に参照していくことが事業のさらなる均質化を進める要因になると考えられる。また、特に医療機関との連携については国レベルの方策が求められると言える。

学校における高次脳機能障がい児・者支援については、関心を持つ学校（研修会参加者）における意識の変化や支援拠点機関での一定の対応が可能であると認められた。また、大阪府内の学校を対象とした調査により、学校における高次脳機能障がいの実態の一端が明らかになった。この結果を基礎資料とし、学校へのより効果的な啓発活動や支援方策を検討すべきである。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

（近畿 別添資料 4 参照）

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

なし

近畿ブロック 高次脳機能障がい者支援体制の整備状況（府県）（平成23年12月末現在）

府県名		京都府	和歌山県	奈良県
支援拠点機関名		京都市リハビリテーション支援センター	和歌山県 子ども・女性・障害者相談センター	奈良県高次脳機能障害支援センター
支援コーディネーター 氏名 職種 常勤 or 非常勤 専任 or 兼務		・杉森 悟子 (臨床心理士・非常勤(週3日)・兼務) ・馬淵 翠 (臨床心理士・非常勤(週2日)・兼務)	・内田 晋 (精神保健福祉士・非常勤・専任)	・河地 睦美 (社会福祉士・常勤・専任) ・植村 紀子 (精神保健福祉士・常勤・専任)
庁内外支援 体制整備関 連会議の立 ち上げにつ いて	庁外(会議名 及び参加機 関名)	●京都府高次脳機能障害者支援プラン(アクションプラン)策定に係る検討委員会 ・委員10名(学識2、リハ施設1、医療1、社会的リハ1、当事者・家族1、相談支援(福祉)1、行政3) ・5回開催	●和歌山県高次脳機能障害支援普及事業検討委員会 (年2回開催) (委員職種 計9名) 医師(2名)・リハビリテーション施設関係者(1名)・当事者支援ネットワーク関係者(1名)・就労支援関係者(1名)・行政関係者(4名) 第1回 7月開催 第2回 3月頃開催予定	●平成23年度高次脳機能障害支援体制検討委員会(医療関係者、労働局、障害者職業センター、当事者団体、支援拠点機関、県関係課)
	庁内(会議名 及び参加職種・ 組織名など)	-	-	●自立訓練センターとの調整会議 (月1回・支援センターと訓練担当者・生活支援員)
相談件数 ①来院・来所 ②電話 ③メール・書簡 ④その他(訪 問・出張・同 行など)	当事者・家族	①20件 ②142件 ③33件 ④19件 計214件	①23件 ②189件 ③14件 ④53件 計279件	①216件 ②376件 ③100件 ④5件 計697件
	関係機関	①8件 ②213件 ③80件 ④4件 計305件	①13件 ②186件 ③16件 ④74件 計289件	①9件 ②760件 ③48件 ④1件 計818件
研修会・セミナー等の開催 状況及び講師派遣 ※詳細は資料集参照		●研修会開催2回 ●参加協力1回 ●講師派遣14回	●研修会2回 ●講演会1回 ●地域支援研修会2回 ●講師派遣7回	●研修会3回 ●講師派遣1回
府県内の地域支援ネット ワークの整備状況		●京都府高次脳機能障害支援ネットワーク会議 ・医療、福祉、行政等を対象 ・3回開催(京都市内、京都府北部、京都府南部)	圏域における支援ネットワーク構築のための検討会議を実施する	●圏域別相談支援担当者連絡会議 (1圏域)

府県名		京都府	和歌山県	奈良県
拠点機関における訓練の提供状況	医療機関	●京都府立医科大学(支援拠点ではないが、協力医療機関としてコーディネーターが検査、認知リハ等を実施する場合がある。)	-	●嘱託医による月4回の診察を実施しており、検査・診断をおこなっている。その後、主治医へ結果の報告をし、継続した治療・リハビリ等を依頼。
	福祉・就労支援機関	特になし	訓練の提供はしていない	●併設の自立訓練センターの生活訓練の情報提供を行なう
その他(広報・啓発や独自に取り組んでいる事業など)		<ul style="list-style-type: none"> ●医療機関における高次脳機能障害に対する診療体制実態調査(考察中) ●京都府アクションプラン検討委員会 ●府内医療機関への高次脳機能障害受入れ体制に関するアンケート実施 ●損保講習会実行委員会への参加 ●パンフレット「高次脳機能障害の理解と支援のために」配布 ●支援拠点機関(京都府リハビリテーション支援センター)のホームページによる情報発信(研修会開催等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●高次脳機能障害発症者実態調査の実施 ●相談支援事業所への相談状況調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●「高次脳機能障害の理解・支援の充実のために～病気や事故の後で、こんな症状はありませんか?～」パンフレット作成(4000部) ●奈良高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会主催「高次脳機能障害研修会」(平成23年9月23日、平成24年2月4日)開催への協力 ●障害者週間の市役所正面玄関ホールにおけるポスター・パンフレットの展示(平成23年12月5日～9日)
研究発表(論文・学会発表・著書など)		論文発表0件 学会発表2件 著書0件	論文発表1件 学会発表0件 著書0件	論文発表0件 学会発表0件 著書0件
児童・生徒に対する取り組み	ケースの有無 「有」ならば ①評価・診断について ②訓練について ③連携機関について	有 ①京都府立医科大学付属病院神経内科・高次脳機能障害外来・主治医 ②公立南丹病院脳神経外科 ③中学校、公立南丹病院	有 ①和医大リハビリテーション科Dr. ST ②和医大リハビリテーション科OT、ST ③小学校	有 ①奈良県高次脳機能障害支援センター嘱託医 ②- ③-
	研修会・勉強会等の実施状況	●第5回京都府高次脳機能障害 医療関係者等研修会 (テーマ:小児期における診断・評価、支援)	-	なし
今後に向けての課題		●平成23年度策定(予定)の京都府高次脳機能障害者支援プラン(アクションプラン)の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●支援ネットワークの構築 ●研修事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●高次脳機能障害地域支援ネットワークの構築(ネットワーク推進要綱の作成・ネットワーク機能の充実) ●高次脳機能障害の普及・啓発活動(研修会の実施)

近畿ブロック 高次脳機能障がい者支援体制の整備状況（府県）（平成23年12月末現在）

府県名		滋賀県	兵庫県	大阪府
支援拠点機関名		滋賀県高次脳機能障害支援センター	兵庫県立総合リハビリテーションセンター	障がい者医療・リハビリテーションセンター
支援コーディネーター 氏名 職種 常勤 or 非常勤 専任 or 兼務		・原田晴美 (介護支援専門員・非常勤・専任) ・小西川梨紗 (臨床心理士・常勤・専任)	●総合リハビリテーションセンター 総合相談所 ・山口 諭実 (社会福祉士・精神保健福祉士・常勤・専任) ・福島 常夫 (前 障害者専門職業紹介事業職業紹介責任者・非常勤・専任)	●大阪府 障がい者自立相談支援センター ・栗村 由喜江(CW・常勤・専任) ・西野 朋子(CW・常勤・兼務) ●大阪府立急性期・総合医療センター ・酒井 味香子(MSW・常勤・兼務) ●大阪府立障がい者自立センター ・泉谷 知子(CW・常勤・兼務) ・辻野 琢也(心理・常勤・兼務)
庁内外支援体制整備関連会議の立ち上げについて	庁外(会議名及び参加機関名)	●平成23年度高次脳機能障害支援体制整備推進会議(医療機関・保健所・地域活動支援センター・障害者職業センター・更生相談所・行政③・支援施設・支援拠点機関・精神保健福祉センター等)2回 ●高次脳機能障害支援専門チーム会議(医療機関・障害者職業センター・行政・更生相談所・支援施設・支援拠点機関・地域生活支援センター・精神保健福祉センターなど)6回	●兵庫県全県・圏域リハビリテーション支援センター圏域コーディネーター連絡会議 ●神戸障害者地域生活支援センター連絡協議会	●平成23年度 第1回大阪府高次脳機能障がい相談支援体制連携調整委員会(①支援拠点機関関係の職員②自治体の職員③地域保健福祉機関関係の職員④医療機関関係の職員⑤障がい者施設関係の職員⑥就労雇用関係の職員⑦当事者・家族会関係の者⑧教育関係の職員) ※委員20名中19名出席。事務局等17名 ●平成23年度 第2回大阪府高次脳機能障がい相談支援体制連携調整委員会(予定)
	庁内(会議名及び参加職種・組織名など)	随時、必要に応じて会議を開催	●総合リハ高次脳機能障害支援特別委員会 ●総合リハ高次脳機能障害施設担当者連絡会	●運営協議会 ・連携推進チーム会議(月2回程度・3機関の支援コーディネーター等(CW・MSW・OT・心理)が参加) ・施策推進チーム(随時・3機関の実務責任者(CW・心理・Ns)が参加)
相談件数 ①来院・来所 ②電話 ③メール・書簡 ④その他(訪問・出張・同行など)	当事者・家族	○滋賀県高次脳機能障害支援センター ①110件 ②267件 ③9件 ④124件 計461件 ○滋賀県立リハビリテーションセンター 若干数 ※相談形態の詳細については未集計。	①108件 ②415件 ③147件 ④29件 計699件	①730件 ②701件 ③81件 ④15件 計1527件
	関係機関	○滋賀県高次脳機能障害支援センター ①37件 ②746件 ③36件 ④176件 計899件 ○滋賀県立リハビリテーションセンター 関係機関からの入退院、外来に係るリハビリの依頼、医療・福祉に関する相談が28件(H23.4月～7月の実人数)。 ※相談形態の詳細については未集計。	①41件 ②477件 ③75件 ④11件 計604件	①73件 ②1332件 ③168件 ④8件 計1581件
研修会・セミナー等の開催状況及び講師派遣 ※詳細は資料集参照		○滋賀県高次脳機能障害支援センター ●研修会3回 ●講師派遣6回 ○滋賀県立リハビリテーションセンター ●研修会(教育研修事業)(2回) ●講師派遣(2回)	●研修会3回 ●講師派遣1回	●研修会7回 ※うち1回は相談支援者養成研修(5日間) ※うち1回は市区町村担当者養成研修(2日間)(仮称) ●講師派遣13回
府県内の地域支援ネットワークの整備状況		●「高次脳機能障害支援専門チーム」の会議を定期的に実施し、地域の困難事例に対しケース検討を実施。 ●地域における課題を抽出し、高次脳機能障害支援体制整備推進会議に報告。 ●リハビリテーションセンターにて、医療部門から退院事例の関わりにおいて、連携が必要と思われる地域生活支援センターと合同勉強会を実施。 ●ネットワーク整備に向けて支援機関へ実態調査を実施中。	未整備	●構築された地域ネットワークに参画してくれるよう、種々の機関に対して随時協力要請(自立支援協議会に依頼して地域ネットワーク会議参加呼びかけ実施) ●養成研修受講修了者を中心にネットワーク打ち合わせ会議を実施・情報共有した上で、地域ネットワーク会議(圏域ごとに計7回)と全体会議(1回)を開催(予定) ●堺市圏域は、今年度から委託しており、委託先が府支援拠点機関と連携して実施に向け取り組む予定。

府県名		滋賀県	兵庫県	大阪府
拠点機関における訓練の提供状況	医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ●滋賀県立成人病センターリハビリテーション科 入院・外来患者において、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士がそれぞれで個別対応のリハビリを実施。あわせて、それぞれの職種と医師がチーム体制をとって集団プログラムを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリテーション中央病院(OT、ST訓練) 	<ul style="list-style-type: none"> ●大阪府立急性期・総合医療センターでのPT・OT・STによる入院リハビリ ●障がい者医療・リハビリテーションセンターにおいてOTによる外来認知訓練
	福祉・就労支援機関	<ul style="list-style-type: none"> ●むれやま荘における自立訓練 ・自立訓練(生活訓練:定員6名) ※主に高次脳機能障害診断基準該当者 今年度より、生活訓練プログラムを実施 ・就労移行支援(定員:12名) ・自立訓練(機能訓練:定員42名) ※身体障害を重複されている利用者を含め、利用者全体の60%近くが高次脳機能障がい者であり、個々に対応したプログラムを提供している。 ※県立リハビリテーションセンター、県立むれやま荘、県立障害者福祉センターが協働で、高次脳機能障がいのある方を対象としたスポーツプログラムを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者支援施設 ・自立生活訓練センター(生活訓練:定員24名) ・あけぼのの家 (就労移行支援事業:定員20名・就労継続支援:定員40名) ●障害者能力開発施設 ・職業能力評価 	<ul style="list-style-type: none"> ●大阪府立障がい者自立センターにおける自立訓練 ・自立訓練(生活訓練:定員30名) ※高次脳機能障がい者対象 ・自立訓練(機能訓練:定員60名) ※利用者の60%が高次脳機能障がい者であり、対応したプログラムを提供 <p>※平成19年4月1日～平成23年11月30日までの利用者は生活訓練145名、機能訓練187名 ※生活訓練利用者の退所後の日中活動は、復職・復学23%、福祉的就労等43%、デイ等25%、入院等4%</p>
その他(広報・啓発や独自に取り組んでいる事業など)	<ul style="list-style-type: none"> ●家族向けパンフレット・啓発用パンフレットをご家族、医療機関、支援機関へ随時配布 ●公文学習を取り入れた高次脳機能障害者への訓練実施 ●自動車教習所と連携して、脳損傷後の運転評価システム実践中 ●「模擬運転・運転適性装置」による実地前運転評価及び注意機能訓練等を実施している。 ●むれやま荘利用者家族交流会 1ヶ月に1回開催 ●リハビリテーションセンターでは就労に係る事例件数が多いことなどから、県内の様々な就労支援機関が集う若年無業者等の就労問題に関わる関係機関情報交換会に参画。高次脳機能障がいに係る課題について提起し、保護付き就業訓練の機会を検討。 ●リハビリテーションセンターの調査研究事業において、高次脳機能障がいのある方が、就労場面や社会生活に即した課題に取り組める場として、地域で運営されている既存のサロンを利用し、プログラムを実施中。 	<ul style="list-style-type: none"> ●リーフレットの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ●府民向け、医療機関向け啓発パンフレットを随時配布(府民向けパンフレットは年度途中で終了。今後啓発パンフレットを作成予定) ●ホームページにて資源マップを掲載。 ●「大阪高次脳研究会」を共催(月1回) ●「大阪高次脳機能障がい者就労支援勉強会」を共催(年4回) ●「高次脳機能障がい者学習会」を共催(11月) ●当事者・家族を対象として急総C内情報交換会を開催(9月より月1回) ●「平成23年度大阪府実態調査事業(緊急雇用創出基金事業)障がい者医療・高次脳機能障がい協力医療機関等実態調査」を所管課主導で実施 	
研究発表(論文・学会発表・著書など)	<ul style="list-style-type: none"> ○滋賀県高次脳機能障害支援センター 論文発表0件 学会発表0件 著書0件 ○滋賀県立リハビリテーションセンター 学会発表4件 	<ul style="list-style-type: none"> 論文発表1件 学会発表6件 著書0件 	<ul style="list-style-type: none"> 論文発表1件 学会発表8件 著書0件 	

府県名		滋賀県	兵庫県	大阪府
児童・生徒に対する取り組み	ケースの有無 「有」ならば ①評価・診断について ②訓練について ③連携機関について	有 ①診断: 滋賀県立成人病センター・主治医 評価: 滋賀県立成人病センター・スクールカウンセラー・クリニック 診療: 障害者総合診療所(県立むれやま荘) ② ③学校・教育センター・保健所・医療機関・千葉県千葉リハビリテーションセンター・生活支援センター・滋賀県発達障害者支援センター・児童デイサービス・市障害福祉課・滋賀県地域生活定着支援センター・保護観察所・専門学校	評価について3件	有 ①大阪府立急性期・総合医療センター・主治医 ②大阪府立急性期・総合医療センター・かかりつけの病院 大阪府立障がい者自立センターでの訓練(高校生以上) ③学校・教育委員会と連携 他県支援拠点機関と連携(他府県連携) ※新規・継続ケースとともに、相談があれば随時対応
	研修会・勉強会等の実施状況	-	-	●学校における高次脳機能障がい者の就学支援に関する研修会(1回) 「高次脳機能障がいの理解と支援—教室での特別教育支援ここがポイント—」 (広島医療秘書こども総合専門学校・広島県スクールカウンセラー・広島県立教育センター ふれあい相談室 馬屋原 誠司氏) ※上記研修会と重複
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で継続的に対応できる体制整備(相談機関の充実) ●医療・福祉だけでなく教育や企業、司法領域との連携(垣根を越えた啓発・周知) ●診断書作成が可能な病院の要請(協力医療機関の要請) ※専門的な診断評価機能を有する医療機関から就労や地域生活までの具体的なステップが不足している状況。今年度、いくつか試行している取組を体系化することと、就労継続支援事業所などの福祉サービス事業所に対して、医療から具体的な実践的取組を提案する必要性がある。	<ul style="list-style-type: none"> ●兵庫県による委員会の設置 ●対応方法等、支援技術の提供 ●新患を受け入れる体制づくり ●全県、圏域ネットワークの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ●政令指定都市(大阪市・堺市)との連携 ●堺市圏域における「健康福祉プラザ」との協力・連携 ●各圏域内の診断・リハビリ等可能な医療機関の充実 ●各圏域内の相談支援体制および人材育成の充実 ●各圏域内で生活訓練・就労支援等を提供できる事業所の充実 	

近畿ブロック 高次脳機能障がい者支援体制の整備状況（政令市）（平成23年12月末現在）

市名	京都市	神戸市	大阪市	堺市
所管課	京都市保健福祉局 保健福祉部 障害保健福祉課	神戸市保健福祉局 障害福祉部 ・障害福祉課 ・自立支援課 ・障害者更生相談所	大阪市健康福祉局 障害者施策部 障害福祉課	堺市健康福祉局 ・障害福祉部 障害施策推進課 ・健康部 精神保健課
担当者 氏名(職種)	三島 美智子 (精神保健福祉相談員)	木下 和弘 (障害福祉課係長 ・事務職)	東 太滋 (事務職)	【障】 中島 宗幸 (事務職員/ 精神保健福祉相談員) 【精】 豊坂 民雄 (事務職員/ 精神保健福祉相談員)
取り組み 状況	独自の取 り組み	未実施	特に実施していません。	○平成24年度開設予定 の健康福祉プラザ内 に、生活リハビリテー ションセンターを設置す ることに向けた検討(高 次脳機能障害支援のセ ンターの機能を果たす ものとして)。 ○「支援コーディネー ター全国会議」「高次脳 機能障害支援普及全国 連絡協議会」「高次脳機 能障害支援事業関係職 員研修会」に出席し、研 修会については伝達研 修を実施。
	府県との 連携状況	京都府主催の支援ネッ トワークへの協力参加 予定。	兵庫県の支援拠点機 関である県立総合リハビ リテーションセンターと連 携して実施	10月7日 ネットワーク 会議打合せ会 11月11日 大阪市圏域 地域支援ネットワーク会 議
	訓練提供 状況	未実施	障害者地域生活支援セ ンター職員等を対象に、 研修会・情報交換会を 開催	-
	その他	-	所管課をはじめ、障害 福祉部内の関係課で、 必要に応じて調整・協議	-
その他平成23年度 以降の予定	未定 京都府が専門相談窓口 を設けており、本市とし ては専門相談等を設け ていないが、各保健セン ター、こころの健康増進 センター、身体障害者リ ハビリテーションセン ター、障害者地域生活 支援センター等において 個別での相談支援を行 っている。	-	-	○引き続き、大阪府より 高次脳機能障がい支援 普及事業受託 ○平成24年度開設予定 の健康福祉プラザ内 に、生活リハビリテー ションセンターを設置 (高次脳機能障害支援 のセンター的機能を果 たすものとして) ○関係機関、庁内関係 課と連携して施策につ いて協議、検討

近畿ブロック 研修会・セミナー等の実施状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容（講演題目及び講演者）
京都府				
第4回京都府高次脳機能障害者・家族交流会	当事者、家族及び支援関係者	平成23年7月19日	62名	「家族の役割とできることー救急から就労まで」 (全国柔道被害者の会事務局理事 小林 恵子 氏)
第5回 京都府高次脳機能障害 医療関係者等研修会	医療機関従事者	平成23年12月17日	108名	「小児期発症の高次脳機能障害の特徴と就学支援の配慮点」 (千葉県千葉リハビリテーションセンター高次脳機能障害支援センター長 太田 令子 氏) 「小児期における高次脳機能障害の診断・評価とリハビリテーション～神奈川県総合リハビリテーションセンターでの取り組み～」 (神奈川県総合リハビリテーションセンター 小児科部長 栗原 まな 氏)
(協力) 第8回 脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会(南部)	一般府民	平成24年1月22日	-	○広島での奮闘！高次脳機能障害者のための自立に向けた取り組み 「事業展開への家族の想いと今後の課題」 (NPO法人 高次脳機能障害サポートネットひろしま 理事長 濱田 小夜子 氏) 「クラブハウスシェイキングハンズでの支援について」 (同法人 クラブハウスシェイキングハンズ 主任指導員 山田 京子 氏) ○京都での奮闘！地域での実践と今後に向けて 「NPO法人 高次脳機能障害支援つくしの会での取り組み」 (NPO法人 高次脳機能障害支援つくしの会 理事長 牧 圭子 氏) 「アウトリーチで生活を支援する試み」 (京都博愛会病院 地域連携室 末吉 明香 氏) 「支援者と当事者・家族がともに支える居場所づくり」 (高次脳機能障害サポート研究会 副代表 南本 宜子 氏)
和歌山県				
医療機関関係者研修会	医療機関従事者	平成23年9月11日	80人	「高次脳機能障害の診断と対応」 (和歌山県立医科大学 理事長・学長 板倉 徹 氏) 「脳損傷者のリハビリテーション」 (なやクリニック 作業療法士 南 千尋 氏)
高次脳機能障害支援普及事業研修会	医療・福祉従事者・当事者家族等	平成23年11月20日	52人	「地域で進める あきらめない回復支援」 (ケアセンターふらっと 施設長 和田 敏子 氏)
高次脳機能障害講演会	医療・福祉従事者・当事者家族等・一般県民	平成24年3月3日	150人 (予定)	「高次脳機能障害ー見えない障害の理解のためにー」 (和歌山県立医科大学 理事長・学長 板倉 徹 氏) 「高次脳機能障害との11年 私達の気づいたこと、伝えたいこと」 (障害者自転車競技選手 石井 雅史・智子 夫妻)
地域支援研修会	医療・福祉・就労等支援関係者	2月 3月	-	-
奈良県				
平成23年度 第1回高次脳機能障害研修会	当事者・家族・関係機関 等	平成23年10月29日	89名	「重度障害を負った脳外科医 一心のリハビリを楽しみながら生きるー」 (元 脳神経外科専門医・現 医療相談員(介護付有料老人ホーム「はなことば新横浜2号館」) 佐藤 正純 氏)
平成23年度 第2回高次脳機能障害研修会	相談支援担当者等	平成23年10月4日	12名	「高次脳機能障害とは」 (奈良高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター 河地 睦美 氏)
平成23年度 第3回高次脳機能障害研修会	支援担当職員(ヘルパー)等	平成23年11月21日	26名	「高次脳機能障害とは」 (奈良高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター 河地 睦美 氏)

近畿ブロック 研修会・セミナー等の実施状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容（講演題目及び講演者）
滋賀県				
滋賀県高次脳機能障害支援センター				
高次脳機能障害研修会	相談支援機関	平成23年6月25日	45名	「高次脳機能障害と診断評価について～地域支援における医療機関の役割～」 (滋賀県立リハビリテーションセンター医療部 リハビリテーション科 川上 寿一 氏) 「高次脳機能障害者の支援と対応～具体的な事例を通じた高次脳機能障害者の支援とは～」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康 氏)
高次脳機能障害研修会	相談支援機関	平成23年7月23日	78名	「高次脳機能障害と診断評価について～地域支援における医療機関の役割～」 (滋賀県立リハビリテーションセンター医療部 リハビリテーション科 川上 寿一 氏) 「高次脳機能障害者の支援と対応～具体的な事例を通じた医療的評価の活用について～」 (長浜赤十字病院 心理判定員 岡本 礼恵 氏)
高次脳機能障害研修会	相談支援機関	平成23年11月26日	46名	「高次脳機能障害の医療的評価を地域生活に活用する方法～京都府における支援体制づくりの工夫～」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤信夫氏) 「高次脳機能障害者の地域支援体制づくり～今後の支援体制への手がかかり～」 (徳島大学大学院 教授 白山 靖彦 氏)
滋賀県立リハビリテーションセンター(滋賀県立リハビリテーションセンター教育研修事業)				
高次脳機能障がい相談支援者養成研修	市町職員、相談支援事業所職員等	平成23年 10月29日・30日 ※2日間日程	23名	●1日目 「ケースマネジメントの理解」 (粟東市役所社会・障がい福祉課 山田 孟志 氏) 「高次脳機能障がいの理解」 ・診断基準の経過および内容 (高次脳機能障害支援センター 原田 晴美 氏) ・高次脳機能障がいの診断と評価 (グループワーク) (県立成人病センター 川上 寿一 氏) 「高次脳機能障がいに対する支援について～症状特性に応じた対応～」 ・対応法(記憶・注意・メモリーノート・遂行機能) (県立成人病センター 佐敷 俊成 氏・武田 慶子 氏) ・社会的行動障害(対人関係困難、迷惑行為、意欲低下、感情コントロール等) (グループワーク) (高次脳機能障害支援センター 小西川 梨紗 氏) ・具体的な取組やケースを通じて 集団プログラムの報告(県立成人病センター 川上 寿一 氏) 就労継続支援事業所B型からの報告 (社会福祉法人にぎやか会ポプリン 園田 恵子 氏) 「研修1日目の振り返り」 ・振り返りとグループワーク(県立成人病センター 川上 寿一 氏) ●2日目 「高次脳機能障がいに対する支援について～相談場面と社会制度」 ・社会福祉制度(年金・手帳・自立支援法)について (近江八幡市立総合医療センター 嶋田 和孝 氏) ・相談場面のロールプレイ (県立成人病センター 渡辺 幸子 氏) ・家族支援および支援者のメンタルヘルスについて(グループワーク) (長浜赤十字病院 岡本 礼恵 氏) 「当事者・家族からの報告」 ・当事者、家族からの体験報告 (脳外傷友の会「しが」 佐藤 直子 氏) 「研修全体の振り返り」 ・研修総括(県立成人病センター 川上 寿一 氏)
高次脳機能障がいコース	看護師、介護士、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー等	平成23年12月3日	29名	「生活場面における高次脳機能障がいの捉え方や対応法」 (滋賀県立成人病センター 川上 寿一 氏 他)

近畿ブロック 研修会・セミナー等の実施状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容（講演題目及び講演者）
兵庫県				
高次脳機能障害 研修会 (高次脳機能障害がいの 理解1)	医療・福祉職	平成24年1月28日	定員 48名	・高次脳機能障害がいを取り巻く現状 ・高次脳機能障害がいの原因 ・高次脳機能障害がいの理解と対応 ・各種アセスメント(演習) (講師:兵庫医療大学 リハビリテーション学部 佐野 恭子 氏)
高次脳機能障害 研修会 (高次脳機能障害がいの 理解2)	医療・福祉職	平成24年2月11日	定員 48名	・高次脳機能障害がいの理解と対応 ・作業・活動に現れる特性の理解と評価 ・作業・活動に現れる特性の理解と評価(演習) (講師:兵庫医療大学 リハビリテーション学部 佐野 恭子 氏)
高次脳機能障害 研修会 (高次脳機能障害がいに 対する支援計画の策 定)	医療・福祉職	平成24年2月18日	定員 48名	・質疑応答 ・心理・社会的側面への配慮 ・事例演習 (講師:兵庫医療大学 リハビリテーション学部 佐野 恭子 氏)
大阪府				
高次脳機能障害がいの 相談支援者養成研修	高次脳機能障害がいの 地域支援ネットワー ク協力医療機関職 員(MSW・OT・PT・ CP・Ns.等) 高次脳機能障害がいの 地域支援ネットワー ク地域支援協力機 関職員(相談支援 事業所・障がいの者 支援施設・作業所・ 就労・生活支援セン ター等職員)	平成23年5月30日 平成23年6月3日 平成23年6月15日 平成23年6月20日 ～24日(フィールド ワーク) 平成23年6月29日	47名	1)①「大阪府における高次脳機能障害がい支援普及事業について」 (大阪府障がいの者自立相談支援センター 身体障がいの者支援課 課長 久保 博康 氏) ②「高次脳機能障害がいとは」 (大阪府立急性期・総合医療センター 渡邊 学 Dr.) ③「診断基準の経過及び内容」 ④高次脳機能障害がいの診断と評価 (大阪府立急性期・総合医療センター 池埜 弥生 OT) 2)1.高次脳機能障害がいとその基本的対応について ①「高次脳機能障害がいとその基本的対応について」 (大阪府立障がいの者自立センター 餘家 沙織 OT) ②「社会的行動障がいの対応」 (大阪府立障がいの者自立センター 辻野 琢也 CP) 2.大阪府立障がいの者自立センターにおける支援の実際 ①「生活訓練プログラム」～支援の視点と支援ツールについて～ (大阪府立障がいの者自立センター 辻野 琢也 CP) ②「高次脳機能障害がいの者 生活場面での事例紹介」 (大阪府立障がいの者自立センター 澤田 匡史 CaW) ③「障がいの者自立センターにおける地域移行支援の実際」 (大阪府障がいの者自立センター 小山 智美 CW) 3「高次脳機能障害がいの者への就労支援の実際」 (クロスジョブ堺 濱田 和秀 代表理事) 3)「社会福祉制度について」 (大阪府立急性期・総合医療センター 酒井 味香子MSW) ・ロールプレイ 4)フィールドワーク(10箇所に分かれて) ①いきがいワーク②第1ヒューマン③第2ヒューマン④工房ヒューマン(日の 出作業所)⑤羅針盤⑥交野自立センター通所部⑦キッズ枚方コミュニケーションズ⑧麦の会ラベンダー作業所⑨すみれ共同作業所⑩大阪府立障が いの者自立センター 5)フィールドワークの報告・情報交換会 ①「当事者・家族からの体験報告」 ・～高次脳機能障害がいをもちて働くということ～ (八尾のほっと♡ケーキの会 当事者 松永 祐介 氏) ・～交通事故による中途障がいの息子とともに～ (八尾のほっと♡ケーキの会 家族 丸本 和子 氏) ②「当事者・家族からの体験報告」 (豊中脳損傷家族会「アンダンテ」 寺島 隆 氏) ・当事者・家族を囲みグループ別交流会 * 1)2)3)5)の最後にグループワークとグループ発表あり

近畿ブロック 研修会・セミナー等の実施状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容（講演題目及び講演者）
高次脳機能障がい医療関係機関等職員研修会	医療関係機関等職員	平成23年7月30日	180名	①「大阪府における高次脳機能障がい支援の取り組み」（大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康氏） ②「脳外傷における高次脳機能障がいの画像診断について」（独立行政法人自動車事故対策機構 中部療護センター センター長 社会医療法人厚生会木沢記念病院 副院長 岐阜大学連携大学院医学系研究科 神経統御学講座 脳病態解析学分野 主任教授 脳神経外科医 篠田 淳氏）
高次脳機能障がい支援関係機関職員等研修会（Ⅰ）	支援関係機関等職員	平成23年10月26日	219名	①「大阪府における高次脳機能障がい支援普及事業の取り組みについて」（大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康氏） ②「高次脳機能障がいの理解と対応について」～クリニックでのグループリハビリを通じて～（やまぐちクリニック 院長 山口 研一郎氏）
学校における高次脳機能障がい者の就学支援に関する研修会	大阪府内の小・中・高等・支援学校の教員等	平成23年12月5日	180名	「高次脳機能障がいの理解と支援一教室での特別教育支援ここがポイント」（広島医療秘書こども総合専門学校・広島県スクールカウンセラー・広島県立教育センター ふれあい相談室 馬屋原 誠司氏）
高次脳機能障がい当事者・家族等研修会	当事者・家族等・高次脳機能障がいに 関心のある府民の方	平成23年12月11日	241名	①「大阪府における高次脳機能障がい支援普及事業の取り組みについて」（大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康氏） ②「働き盛りで倒れたら」～当事者・家族から伝えたいこと～（高次脳機能障がいの夫と暮らす日常コミック「日々コウジ中」「続・日々コウジ中」作者 イラストレーター 柴本 礼氏 ・コーディネーター やまぐちクリニック 院長 山口 研一郎氏）
高次脳機能障がい支援関係機関職員等研修会（Ⅱ）	支援関係機関等職員	平成23年12月15日	140名	①「高次脳機能障がい者の就労支援の全国的な動き」（障害者職業総合センター 主任研究員 田谷 勝夫氏） ②シンポジウム「高次脳機能障がいの就労支援について」（コーディネーター 大阪障害者職業センター 次長 高坂 修氏） （大阪障害者職業センター 障害者職業カウンセラー 福田 雄二氏） （葛城病院 リハビリテーション科 作業療法士 永田 作馬氏） （泉州中障害者就業・生活支援センター 就業支援員 齊喜 祐輔氏） （大阪府立障がい者自立センター 心理職 辻野 琢也氏） （NPO法人 クロスジョブ 就労移行支援事業所 クロスジョブ堺 高次脳機能障がい支援担当 西脇 和美氏）
高次脳機能障がい市区町村担当者養成研修（仮称）	市区町村等 担当職員	平成24年1月13日 平成24年1月20日	50名 (予定)	1.高次脳機能障がいの理解について 2.ロールプレイ 3.当事者・家族との交流

近畿ブロック 講師派遣状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演派遣者名及び講演題目
京都府				
精神保健福祉総合センター高次脳機能障害グループワークプログラム	グループワークメンバー(当事者)	平成23年5月31日	6名	「高次脳機能障害について」 (京都府リハビリテーション支援センター 乃美 由樹代)
精神保健福祉総合センター高次脳機能障害グループワークプログラム	グループワークメンバー(当事者)	平成23年6月14日	6名	「社会資源について」 (京都府高次脳機能障害支援コーディネーター 馬淵 翠)
NPO法人高次脳機能障害支援つくしの会設立総会記念総会	当事者・家族・支援者	平成23年6月19日	30名	「高次脳機能障害とリハビリ」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
京都府社協第1回専門員・支援員研修交流会	福祉関係者	平成23年6月28日	50名	「高次脳機能障害の医学的理解と日常生活支援の方法」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
つくしの会 第1回高次脳機能障害セミナー	一般府民	平成23年10月22日	不明	「京都府高次脳機能障害私怨事業について～3年間を振り返って～」 (京都府高次脳機能障害支援コーディネーター 馬淵 翠)
第7回 脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会(北部地域)	一般府民	平成23年11月13日	約90名	「高次脳機能障害とは」 (京都府高次脳機能障害支援コーディネーター 馬淵 翠)
障害者就業・生活支援センター近畿ブロック経験交流会議 高次脳機能障害部会	近畿圏内障害者就業・生活支援センター	平成23年11月18日	88名	※アドバイザー (支援コーディネーター 杉森 悟子 ・京都府リハビリテーション支援センター 乃美 由樹代)
2011年度 交通事故被害者生活支援教育研修会	医療ソーシャルワーカー等	平成23年11月20日	82名	「京都における高次脳機能障害者の相談支援について」 (京都府高次脳機能障害支援コーディネーター 馬淵 翠)
平成23年度高次脳機能障害滋賀研修会	福祉・行政関係者	平成23年11月26日	46名	「高次脳機能障害者の医学的評価を地域生活に利用する方法」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
平成23年度福祉サービス利用援助事業	福祉・行政関係者	平成24年1月17日	-	「高次脳機能障害の理解と日常生活支援のヒント」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
南丹市ケアマネ連絡会	ケアマネージャー等	平成24年1月19日	-	「高次脳機能障害の方を支える支援のあり方について」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
精神保健福祉総合センター高次脳機能障害グループワークプログラム	グループワークメンバー(当事者)	平成24年2月14日	-	「高次脳機能障害について」 (京都府リハビリテーション支援センター 乃美 由樹代)
精神保健福祉総合センター高次脳機能障害グループワークプログラム	グループワークメンバー(当事者)	平成24年2月21日	-	「社会資源について」 (京都府高次脳機能障害支援コーディネーター 馬淵 翠)
平成23年度 第6回ジョブコーチ支援事業推進協議会	第1号職場適応援助者、認定法人関係者、障害者職業センター職員ほか20名程度	平成24年3月16日	-	「高次脳機能障害のある方への支援、地域支援体制の状況について(仮題)」 (京都府高次脳機能障害支援コーディネーター 杉森 悟子・京都府リハビリテーション支援センター 乃美 由樹代)

近畿ブロック 講師派遣状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演派遣者名及び講演題目
和歌山県				
和歌山高次脳機能作業療法研究会 研修会	作業療法士	平成23年10月2日	60名	「高次脳機能障害者への関わり～どうつながるか、どうつなげるか～」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
職員研修	白浜町社協職員(ヘルパー・ケアマネ)	平成23年10月24日	25名	「高次脳機能障害とは」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 内田 晋)
職員研修	施設職員	平成23年11月30日	50名	「高次脳機能障害とは その対応」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
和歌山県作業療法士会 学術部 紀南ブロック研修会	作業療法士	平成24年1月8日	50名(予定)	「高次脳機能障害者の地域支援」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
和歌山県作業療法士 新人研修	作業療法士	平成24年1月15日	50名(予定)	「高次脳機能障害者の地域支援」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
和歌山県作業療法士会事業部 公開講座	ケアマネ 他	平成24年1月29日	50名(予定)	「高次脳機能障害とは その対応」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
訪問リハビリテーション研修会	PT・OT・ST	平成24年3月4日	100名(予定)	「高次脳機能障害者の地域支援～現状と課題～」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
奈良県				
奈良脳外傷友の会 定例会	当事者・家族	平成23年7月10日	約20名	「奈良高次脳機能支援センター利用紹介～事例より～」 (奈良高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター 河地 睦美)
滋賀県				
滋賀県高次脳機能障害支援センター				
第34回きょうされん 全国大会inしが特別分科会	作業所職員・当事者・家族	平成23年10月22日	20名	「高次脳機能障害についてーその概要と対応方法ー」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田 晴美・小西川 梨紗)
高次脳機能障害相談 支援者養成研修	相談支援機関職員	平成23年10月29日	約20名	「診断基準の経緯および内容」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田 晴美) 「社会的行動障害について」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 小西川 梨紗)
長浜米原しょうがい者 自立支援協議会第2回 実務者会議	相談支援機関職員	平成23年11月7日	約70名	「高次脳機能障害の基礎知識とその対応」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 小西川 梨紗)
むれやま荘社会福祉士 実習生研修	実習生	平成23年11月28日	1名	「高次脳機能障害について」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田 晴美)
医療ソーシャルワーカーを対象とした交通事故被害者生活支援 教育研修会	医療ソーシャルワーカー	平成24年1月22日	約50名	「高次脳機能障害支援センターについて」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田 晴美)

近畿ブロック 講師派遣状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演派遣者名及び講演題目
職員学習会	作業所職員	平成24年1月25日	6名	「高次脳機能障害の基礎知識とその対応」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 小西川 梨紗)
滋賀県立リハビリテーションセンター				
地域生活支援センターとの合同勉強会	関係職員	平成23年10月	約30名	高次脳機能障がいのある方への支援について (滋賀県立成人病センター川上 寿一 他リハビリテーション科職員)
職場適応援助者養成研修	職場適応援助者を 目指す方	平成23年11月	約40名	障害特性と職業的課題 身体障害・高次脳機能障害 (滋賀県立成人病センター 川上 寿一)
兵庫県				
東播磨圏域 高次脳機能障害の理解について	支援者	平成24年3月	30名程度	・高次脳機能障害とは ・支援の実際 ・家族支援 (リハビリテーション中央病院 心理判定員 白川 雅之) (自立生活訓練センター 臨床心理士 西村 武) (高次脳機能障害相談窓口 山口 諭実)
大阪府				
枚方ソーシャルワーク研究会 定期総会記念講演	枚方市及び近隣地区で保健・医療・福祉の現場で活動している研究会所属者	平成23年4月22日	73名	「障害者自立支援法について～高次脳機能障がいの理解と地域生活支援について～」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
守口市障害者理解促進・啓発講座(障害者理解促進・ボランティア養成事業の一環)	一般市民	平成23年5月26日	88名	「高次脳機能障がいとは」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 西野 朋子)
市町村障がい者福祉担当者研修	市町村の障がい者福祉担当者	平成23年6月10日	34名	「大阪府高次脳機能障がいの理解と支援について」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
あいえる協会ヘルプセンター・ホップ研修会	事業所所属のヘルパー	平成23年6月23日	30名	「高次脳機能障がいの理解」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 課長 岩見 和夫)
滋賀県平成23年度 高次脳機能障害支援センター 第一回 高次脳機能障害研修会	支援関係者等	平成23年6月25日	46名	「高次脳機能障がい者の支援と対応～具体的事例を通じた高次脳機能障がいの支援とは～」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康)
障害者職業紹介業務担当者研修	公共職業安定所の障がい者職業紹介業務担当者(今年度新任者)	平成23年7月8日	20名	「高次脳機能障がい～障がいの特性や支援について～」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
障がい者自立相談支援センター 知的障がい者支援課 課内研修	知的障がい者支援課職員	平成23年7月14日	約20名	「高次脳機能障がいとは～障がいの特性や支援について～」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
平成23年度 相談支援従事者初任者研修(基礎研修)	相談支援従事者初任者研修受講者	平成23年8月31日	192名	「高次脳機能障がいの理解」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也)

近畿ブロック 講師派遣状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演派遣者名及び講演題目
交通事故被害者生活支援教育研修 in 大阪	医療ソーシャルワーカー	平成23年9月3日	83名	「大阪府立障がい者自立センターにおける生活訓練プログラム」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也) 「高次脳機能障がい者・家族への支援の実際」(シンポジウム) (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康)
阿倍野区介護支援事業者連絡会「高次脳機能障がいについての研修会」	阿倍野区居宅介護支援事業者連絡会職員	平成23年9月16日	71名	「高次脳機能障がいとは～障がいの特性や支援について～」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 西野 朋子)
相談支援従事者現任研修 全体講義	相談支援従事者	平成24年1月31日	—	「高次脳機能障がい者の生活・就労支援」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江) ※大阪市西部地域就業支援センター・就労支援ワーカー 松内 加奈子 氏と共同発表
八尾市自立支援協議会地域生活支援部会	八尾市内居宅介護事業所の管理者及び責任者、または現場で関わっているヘルパー	平成24年2月28日	—	「高次脳機能障がいを抱えている方への具体的対応、及び高次脳機能障がいへの理解について」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 澤田 匡史)
大阪障害者職業能力開発校 所内研修	能力開発校職員	平成24年3月	—	(講師未定)

(近畿別添資料 2)

「学校における高次脳機能障がい者の就学支援に関する研修会」

終了後のアンケート調査結果

ア. アンケート調査の概要

① 目的

この研修会は、小、中、高等、支援学校の先生方等を対象に、高次脳機能障がいについての理解を深めていただくことを目的として開催したものである。本調査は、本研修会参加者を対象に、高次脳機能障がいについての理解度や各学校における支援方法等の状況を把握することにより、今後の研修、相談等高次脳機能障がい児・者への支援策の検討に役立てることを目的として実施した。

② 調査方法

当日の研修会参加者180名にアンケート調査用紙を配布し、うち153名から回答があった。(回収率85.0%)

調査内容は、高次脳機能障がいについての理解度、勤務先(学校)の高次脳機能障がい者の有無、学校における支援の有無、支援方法、受入れに際しての対応、今後必要な支援策などである。

(参考) 研修会参加者の内訳

- ・公立小学校 65名 (56校)
- ・公立中学校 49名 (43校)
- ・公立高校 42名 (39校)
- ・私立学校 9名 (7校) (高校5、中高4)
- ・支援学校 8名 (7校)
- ・その他 7名(他府県支援学校2 (1校)、他府県支援C等3、府内市町村2)

③ アンケート調査用紙

別紙のとおり。

高次脳機能障がいに関する研修会アンケート

本日の研修会参加の皆様へのアンケートです。

ご面倒ですが、回答の上、研修会終了後、ご提出いただきますようお願いいたします。

1. 高次脳機能障がいについて、本日の研修を受けるまで知識はありましたか。
ア. 良く知っている。 イ. すこし知っていた。 ウ. 全く知らなかった。
2. これまで「高次脳機能障がい児・者」を担任又は支援したご経験はありますか。
ア. ある。 イ. ない。 ウ. わからない。
3. 皆さんの勤務先(学校)に、高次脳機能障がいがある、又はその疑いのある児童、生徒(以下「高次脳機能障がいのある児童、生徒」という。)はいますか。
ア. いる。(人) イ. いない。 ウ. わからない。
4. 3で高次脳機能障がいのある児童、生徒が「ア. いる。」と答えた方にお尋ねします。
学校として、何らかの支援をしていますか。
ア. 支援している。⇒(具体的に記入)
イ. 支援していない。
5. 4で「ア. 支援している。」と答えた方にお尋ねします。
支援している中で、どのようなことでお困りですか。あるいは、どのようなことが課題となっていますか。次の中からお選びください。(最大5つまで複数回答可)
ア. 注意障がい・記憶障がい・遂行機能障がいへの対応方法
イ. 社会的行動障がい(感情コントロールの低下・意欲低下など)への対応方法
ウ. 学習の進め方 エ. 本人の障がい認識 オ. 周囲の児童・生徒の理解 カ. 周囲の保護者の理解
キ. 教職員の理解 ク. 保護者の障がい理解 ケ. 医学的診断 コ. 専門家との連携
サ. 進学・就労についての進路指導 シ. 学校間の引継ぎ(進学時など) ス. 相談先
セ. その他()
6. 4で「イ. 支援していない。」と答えた方にお尋ねします。支援していない理由は何ですか。
ア. 支援の仕方が分からない。
イ. 家族に任せている。
ウ. その他 ⇒()
7. 高次脳機能障がいのある児童、生徒を学校で受け入れるに際し、何か配慮されたことはありますか。
8. 高次脳機能障がいのある児童、生徒に対して、今後、どのような支援が必要と思われますか。
9. その他、本日の研修へのご意見・ご感想等をお書きください。
10. 勤務先:ア. 小学校 イ. 中学校 ウ. 高等学校 エ. 支援学校 オ. その他()

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ、学校名等勤務先名、氏名をご記入ください。

学校名等() 氏名()